

授業科目(ナンバリング)	日本語コミュニケーションA (CB204)			担当教員	佐野香織		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本講義は、日本語教員養成課程の履修者の必修科目であり、「日本語の構造」研究分野のうち、「日本語学」について学ぶ。</p> <p>本講義は「日本語学」において、日本語の構造、意味、用法、表記、音声について一通りの基本的な知識や考え方を習得する。そして、日本語を世界の諸言語の一つとして客観的に観察できるようになること、さらに、内省をとおして自身の日本語コミュニケーションを分析できるようになることを目標とする。</p>							②④⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	現代日本語に関する情報収集、内省と観察による日本語使用分析ができる				課題提出物	40%	
コミュニケーション力	日本語学の基礎を理解し、グループで意見交換ができる。				意見課題	30%	
協働・課題解決力							
多様性理解力	諸言語と日本語を比較し、日本語の特徴を理解する。				定期試験	30%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
日本語の観察・分析に関する課題提出物で70%、期末レポートで30%を評価する。提出物、意見シートに関しては、翌週の授業内容に反映させる。課題の内容も授業中にフィードバックを行う。							
授業の概要							
日本語の表記、文字、文体、待遇表現、音声等を学習し、日本語の観察、分析を通して、日本語学の基礎を学習する授業である。受講生自らが「日本語」を観察し、「日本語」について考え、分析できるようになることを目標とする。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教科書・参考書							
<p>教科書：定延利之（編）『私たちの日本語』朝倉書店</p> <p>参考書：適宜紹介する</p> <p>指定図書：定延利之（編）『私たちの日本語』朝倉書店</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>テキストの指定の箇所を必ず読み、空欄□に入ることばを考えて書いてきてください。</p> <p>日常生活を送る中で気が付いた「身近な日本語」を観察し、疑問に思う姿勢を大切にしてください。</p> <p>本授業では、オンライン上でグループ活動を行います。積極的な参加を期待します。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	「日本語」とはなにか、「日本語」のしくみについて考えるために必要なこと、用語の確認をする。	「日本語」のしくみについて知っていることを考えてくる。
2	日本語を観察する	身近にある看板や貼り紙の観察を通して、「日本語」を考えていく。	気になる看板や貼り紙を見つけ、写真を撮ってくる(予習)
3	日本語の特徴	日本語の形態素、文体、文字について学ぶ。	スマホやPCでよくしてしまう誤変換(変換ミス)例を3つ提出(予習)
4	日本語の構文 書きことばと話しことば	日本語の構文、書きことばと話しことばのちがいについて分析する。	よく考えるとおかしい、と思う文を探してくる(予習)
5	日本語の表記	現代日本語の表記体系を概観し、特にカタカナの役割について学ぶ。	本や雑誌、看板のカタカナ表記例を3つ探してくる。(予習)
6	日本語の文字表現と音声	現代文字言語標記と音声言語の関係を考える。	オンライン上の日本語コミュニケーションに関するレポート作成
7	日本語の役割語	日本語の文末形式を通して、役割語について考える。	マンガ・アニメなどの文末形式から役割語を探して説明する(復習)
8	日本語の規範	サーチエンジンやコーパスを題材として日本語の規範と傾向について学ぶ。	にほんごの「ゆれ」について調べてみる(復習)
9	日本語における副言語 (パラ言語)	メールにおける顔文字使用について知り、分析する。	自分が良く使う顔文字、絵文字を3つあげる(予習)
10	日本語のコミュニケーション	挨拶を例として日本語のコミュニケーションについて考える。	初対面の挨拶スクリプトを考えてくる(予習)
11	日本語とポライトネス	断り表現を例として日本語の丁寧さ(ポライトネス)や待遇コミュニケーションを考える。	否定表現を使わずに断る例を考えてくる(予習)
12	日本語とアクセント	日本語のリズムを決定付ける要因としての高低アクセントについて解説する。	アクセントの復習
13	日本語の音声	日本語学習者の誤用を例に、日本語の音声の基礎を知る。	音声の基礎の復習
14	日本語の音声コミュニケーション	日本語教育の音声指導を例に、音声コミュニケーションについて考える。	音声コミュニケーションに必要な知識の復習
15	まとめ	日本語学習者がよくする質問について、これまで学んできたことを生かして考える。	期末レポート執筆準備